

令和5年度英語教育実施状況調査について(小中学校等)令和5年12月実施

1 生徒の英語力について

生徒 求められる英語力(CEFR A1レベル:おおよそ英検3級程度以上)を有する中学校3年生の割合(第4期教育振興基本計画における国の目標:60%)

年度	H30	R1	R3	R4	R5	R5 全国合計
相当以上 (①+②)	40.9%	44.2%	60.9%	59.1%	57.9%	50%
うちA1取得 (①)	27.3%	29.2%	42.8%	42%	40.2%	27.9%
うちA1相当英語 力(②)	13.6%	15.0%	18.1%	17.1%	17.7%	22.1%
全国順位 (①+②)	19位	12位	2位	3位	3位	—
全国順位(①)			3位	4位	4位	

2 英語担当教師の英語力について

教師 求められる英語力(CEFR B2レベル:おおよそ英検準1級程度以上)を有する中学校英語教師の割合(参考 第2期教育振興基本計画における国の目標:50%)

	H30	R1	R3	R4	R5	R5全国
取得状況	31.3%	34.3%	36.0%	37.8%	36%	44.8%
全国順位	34位	28位	29位	26位	39位	—

3 その他本県の中学英語教育の取組状況について

(1) CAN-DOリストの設定状況等 ()内の数値はR4調査時

	CAN-DOリスト形式 の学習到達目標を設定	CAN-DOリストを 公表している	CAN-DOリストの 達成状況を把握している
群馬県	100% (100%)	67.7% (64.3%)	72.3% (77.7%)
全国	96.1% (94.1%)	71.6% (65.7%)	80.7% (78.4%)

(2) ICTの活用 ()内の数値はR4調査時

	英語の授業において 1人1台端末を活用 した授業(R4)	話す活動で活用 (発表・やり取り)	書く活動で活用 (キーボード入力等)
群馬県	100% (100%)	98.1% (98.1%)	94.8% (93%)
全国	99.4% (99.7%)	93.2% (90.8%)	89.9% (87%)

(3) 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合

項目		R3	R4	R5
50%程度以上 言語活動を 実施	1年	78.9%	81.5%	76.8%
	2年	75.1%	80.1%	76.8%
	3年	72.2%	80.2%	74%

4 その他本県の小学校英語教育の取組状況について

(1) CAN-DOリストの設定状況等 ()内の数値はR4調査時

	CAN-DO リスト形式 の学習到達目標を設定	CAN-DO リストを 公表している	CAN-DO リストの 達成状況を把握している
群馬県	98.7% (94.7%)	52% (48.7%)	79.3% (77.3%)
全国	84.5% (78.8%)	58.2% (48.4%)	74.9% (70%)

(2) ICTの活用 ()内の数値はR4調査時

	ICTを活用した学校 一人一台端末を活用し た授業 (R4)	話す活動で活用 (発表・やり取り)	書く活動で活用 (キーボード入力等)
群馬県	97.7% (98.3%)	90.7% (88.3%)	73% (70.3%)
全国	96.4% (96.8%)	88.9% (85.3%)	71.6% (67.6%)

(3) 小学校外国語科の授業における言語活動時間の割合

項目		R3	R4	R5
50%程度以上言語活動を実施	5年	94.8%	92%	94%
	6年	95.7%	93.3%	96.3%

5 まとめ

- 生徒の英語力について、求められる英語力を有する生徒の割合は、R4より-1.2%少なくなっているが、全国(50%)よりも上回っている。
R5年度のCEFR A1レベル以上を実際に取得している生徒の割合(①)が減少している原因の一つとして、外部試験等の受験数の減少が考えられる。
- CAN-DOリストを活用した4技能の指導や評価については広く行われており、児童生徒とゴールを共有するなど、公表している学校の割合はともにR4年度に比べ、上昇している。
- 小中学校ともに、一人一台端末を活用した活動(話す・書く)については、全国に比べ高い。言語活動をより活性化、充実させるツールとしてICT活用が重要である。
- 英語担当教師の英語力についてCEFR B2レベル(おおよそ英検準一級程度以上)を有する中学校英語教師の割合が36%とR4より減少している。
- 中学校の授業における生徒の言語活動の割合がR4より減少している。
- ◎CEFR A1レベルを有する中学校3年生の割合は、若干の減少(-1.2%)はしているが、高い水準を保っている。これは、小中学校において、先生方が日々、授業改善に取り組まれ、言語活動が充実した英語教育が行われているためと考えている。
早くから小学校英語に力を入れてきており、小学校における言語活動の充実が図られてきた。言語活動を中心とした授業の実施は中学校においても継続していくことが重要である。
現在、本県は、教師が「させる」授業から児童生徒が「する」授業へと授業改善を推進しており、児童生徒が自分で考え学ぶ主体的な学びを一層促進したいと考えている。義務教育課では小中学校の先生方が互いの授業について知る機会とし、昨年度より行っている各教科等授業改善プロジェクトを推進している。児童生徒が自分の考えを伝えたいという思いをもち、試行錯誤しながらコミュニケーションを図る姿が見られるよう、小中学校における言語活動を軸とした授業づくり、授業改善の在り方を発信していきたい。

※これまでの県の取組

- 平成26年度～平成29年度 英語教育強化地域拠点事業(文部科学省)
- 平成29年度～令和元年度 英語教育アドバイザー(EAT)派遣事業
- 平成30年度～令和2年度 群馬の中学生英語4技能スキルアップ事業(県)
- 令和2年度 群馬の小学生英語コミュニケーション力向上事業(県)
- 令和5年度～7年度 各教科等授業改善プロジェクト(県)

令和6年5月20日
 高校教育課 教科指導係
 (027-226-4645)

令和5年度英語教育実施状況調査について（高等学校）令和5年12月実施

1 生徒の英語力について

生徒 求められる英語力（CEFR A2 レベル：おおよそ英検準2級程度以上）を有する公立高校
 3年生の割合（第4期教育振興基本計画における国の目標：60%）

年度	H30	R1	R3	R4	R5	R5 全国合計
相当以上 （①+②）	40.3%	42.2%	44.3%	48.4%	50.1%	50.6%
うちA2取得 （①）	28.9%	32.4%	38.6%	38.8%	35.1%	32.0%
うちA2相当英語力 （②）	11.3%	9.9%	5.7%	9.6%	15.1%	18.6%
全国順位 （①+②）	21位	28位	29位	24位	23位	—
全国順位（①）			12位	6位	16位	

※CEFR B1 レベル（英検2級相当以上）を有する割合16.7%（R4は15.7%）全国順位6位

2 英語担当教師の英語力について

教師 求められる英語力（CEFR B2 レベル：おおよそ英検準1級程度以上）を有する公立高校英語
 教師の割合（参考 第2期教育振興基本計画における国の目標：75%）

	H30	R1	R3	R4	R5	R5 全国
取得状況	71.7%	73.0%	77.3%	68.6%	77.7%	80.7%
全国順位	23位	26位	24位	33位	34位	—

3 その他本県の高校英語教育の取組状況について

(1) 4技能の指導と評価の実践

○ CAN-DOリストの設定状況等（ ）内の数値はR4調査時

	CAN-DOリスト形式 の学習到達目標を設定	CAN-DOリストを 公表している	CAN-DOリストの 達成状況を把握している
群馬県	100% (100%)	73.0% (74.3%)	74.3% (74.3%)
全国	94.8% (93.5%)	66.2% (64.0%)	65.0% (64.1%)

(2) ICTの活用 () 内の数値はR4調査時

	英語の授業において1人1台 端末を利用した授業を実施	話す活動で活用 (発表・やり取り)	書く活動で活用 (キーボード入力等)
群馬県	100% (-)	90.6% (90.6%)	85.9% (85.9%)
全国	98.3% (-)	89.2% (86.9%)	84.9% (78.4%)

(3) 授業における生徒の英語による言語活動時間の割合 (全体の割合)

	H30	R1	R3	R4	R5	R5 全国
50%程度以上 言語活動を実施	61.3%	60.0%	49.4%	49.5%	49.1%	54.3%
全国順位	7位	12位	24位	24位	26位	-

4 まとめ

- 生徒の英語力については、CEFRA2 レベル相当以上を実際に取得している生徒の割合 (①) と同レベル以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (②) と合わせた達成値 (①+②) は過去5年間でおよそ10%増と年々増加している。
- 今年度、CEFRA2 レベル相当以上を実際に取得している生徒の割合 (①) は前年度と比較すると3%減であったが、減少している要因の一つとして、外部試験等の受検者数の減少が考えられる。
- 一方で、CEFRA2 レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合 (②) は、前年度と比較するとおよそ6%増加した。この要因としては、ライティング、スピーキング等のパフォーマンステストの実施が積極的に行われており、生徒の英語力を見取るための評価方法について工夫・改善が見られることが考えられる。実際、本調査におけるパフォーマンステストの実施状況の結果を見ると、本県はスピーキングテスト・ライティングテスト両方を実施した割合が77.6%と高い。(全国49.8%)
- 現在、本県では、外国語の授業において、言語活動の充実を図り、積極的に英語を用いて自分の思いや考えを発信し、コミュニケーションを図る力を育成する授業改善を推進している。今後、群馬県教育ビジョンを踏まえ、生徒がより主体的に学びに向かう姿勢を育成するため、能動的かつ協働的な学びを推進していく。